

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 14~16 節>

①なぜユダは裏切ったのか？ 大事なのは聖書は何を語っているか！

12 弟子の一人イスカリオテのユダがイエス様を裏切った？！ 信仰者であるなしにかかわらず、「なぜ？」と問わずにはおられない出来事です。信仰の書である聖書が、いわば、あえて醜聞を伝えるのはなぜか？ その理由を深く探るためには、自分で勝手に推測するのではなく、聖書自身が語っていることを追わなければなりません。

②銀貨 30 枚でイエス様を売った！ このことには深い意味があった！

マタイが特に語ろうとしていることは、このユダが首をつって自殺したことを記している箇所を見ると分かります(27:3-10)。銀貨 30 枚は、奴隷を死なせてしまった時にその主人に払う賠償額で(出エジプト記 21 : 32)、旧約聖書のゼカリヤ書(11:11-12)では、イスラエル人が神様のことをその程度の額で好きなように売ったり買ったりできる存在位にしか考えていないことが非難されているのです。

ユダがイエス様を売った理由として、怒り（高価な香油の女の出来事の直後。ヨハネ福音書ではユダが女を非難した）、失望（自分が期待していたことに対する）、食欲（ヨハネ福音書ではお金をごまかしていた）等、色々考えられていますが、結局は分かりません。「サタンが入った」（ルカ 22:3、ヨハネ 13:27）との表現が一番ふさわしく、それは私たちが自分の外の何か（サタン）のせいにするためではなく、私たちが自分自身にどんな確信も持つことができない不確かな存在であることを示しているのです。「人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか」（エレミヤ書 17:9）。しかし、ユダによって助けられた祭司長たちの勝利かと思えた出来事は一時のことであり、それは主イエスの復活により、とらえ難い存在である私たちをなお赦して下さる大いなる愛を示す出来事となったのです。「あなたがたは私に悪を企みましたが、神はそれを善に変え、多くの命を救うために、今日のようにして下さったのです」（創世記 50:20）。神様の恵みの支配の確かさを信じて生きる者になりましょう！